

# 静大大会 2002年

村越 真

2002年オリエンテーリングシーンが静大大会とともに幕をあげた。男子最上位クラスを制したのは、昨年後半不調に見舞われた鹿島田。女子は志村が制した。

大学クラブ最古参の一つである静大オリエンテーリングクラブが、今年30周年を迎えた。1月6日に開催される大会は、その記念大会も兼ねた大会であった。テレインは前回の静大大会と同じ奇跡の森であるが、今回はオーストラリアのプロ Mapper、ロブ・ブローライトの調査・作図による地図で、前回から格段とレベルアップした地図が用意された。クラブ員減少なども考慮し、派手な広報をしなかったせいか、参加者は400人弱と若干寂しいが、テレイン・地図・コースともによく準備され、新春を飾るにふさわしい大会である。

前日の夜は、一時風花も舞い、かなり風が強くなったが、当日は穏やかな天気で、静岡のシンボル富士山もくっきり見える絶好の天気となった。気温は、シリアスなレースには少し暑いくらいだが、一般参加者にとっては手ごるな気候だったろう。

クラス分けの方は、公認大会のような年齢による分化は一切なく、また



会場からは、雪をかぶった富士山が・・・

エリートもなし。男女とも、A、A S、B、B Sからなっている。年齢によるクラス分けはオリエンテーリングの特色の一つとされるが、この程度の参加者の場合、むしろクラスごとの人数がある程度確保される形は、今後の中規模大会の指針になるものであろう。Nとグループに関しても、工夫が見られる。一般クラスは会場から40分も歩いた場所がスタートで、フィニッシュも30分以上の距離がある。それに対して、Nや市民クラスは会場から10分のところがスタートで、会場がゴールである。オリエンテーリング愛好者にとって、いいテレインとコースが用意されるなら、スタートやフィニッシュまでの距離は気にならないだろうが、初めて参加する人や、近所の参加者はそうは思わないだろう。今後大会が、開催地の人々にも開かれたものになる

にあたっては、些細なことだが、気を付けるべきポイントと言えるだろう。

## 女子は志村、男子は鹿島田

エリートクラスがないので、Aが男女とも最上位のクラスとなった。男子は鹿島田が、女子は志村が制した。志村は、夏以降トレーニングのバタンを変えて、今期は好調であったが、塩田（筑波大学）を抑えて、上位陣の参加する大会としては初の優勝となった。また鹿島田も、今期は2位に甘んじることが多かったが、全日本チャンピオンの松沢を1分強抑えての優勝であった。

全般に極端に難しいレッグは見られないが、気を抜くと、小さなミスを連発するレッグが続く。緊張感を保ち続けたものが結果を手に入れることのできるコースである。



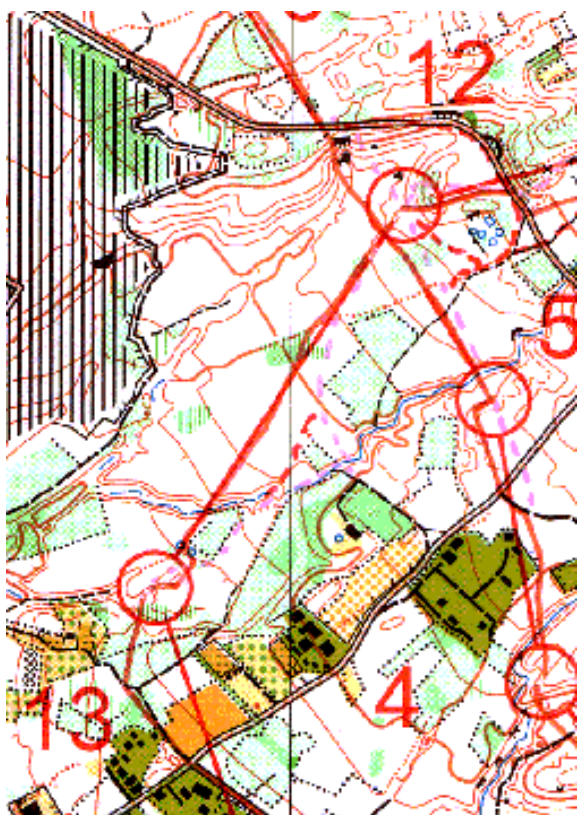
女子WAを制した志村。後ろは渡辺円香



今季久しぶりの勝利を手にした鹿島田

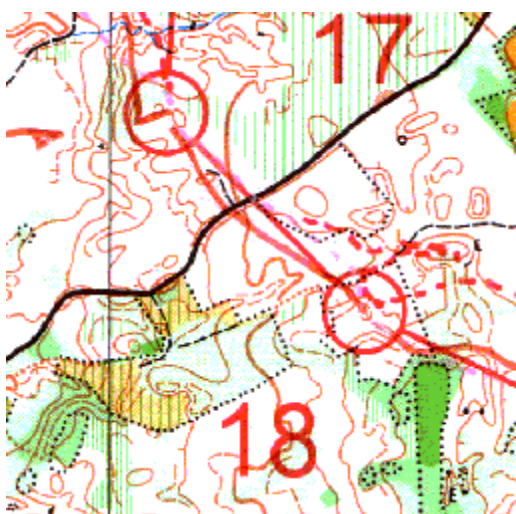
## 勝負を決した中盤

図は男子の上位の勝負を決した 12 13 番レグである。松沢はこのレグで 1 分以上、3, 4 位の高橋、紺野も 45 秒近いミスをしている。それまではほぼ互角のタイムだった上位 4 人の中から、鹿島田がこの区間で抜け出した。



レグ線上の実践が鹿島田、  
細い点線が松沢、太い点線が 4 位紺野

後半は追い込まれたものの、トップを守った。紺野は最終の一つ前の 18 番コントロールでも不用意な直進で 1 分以上のミス (図)、2 位のチャンス逃した。



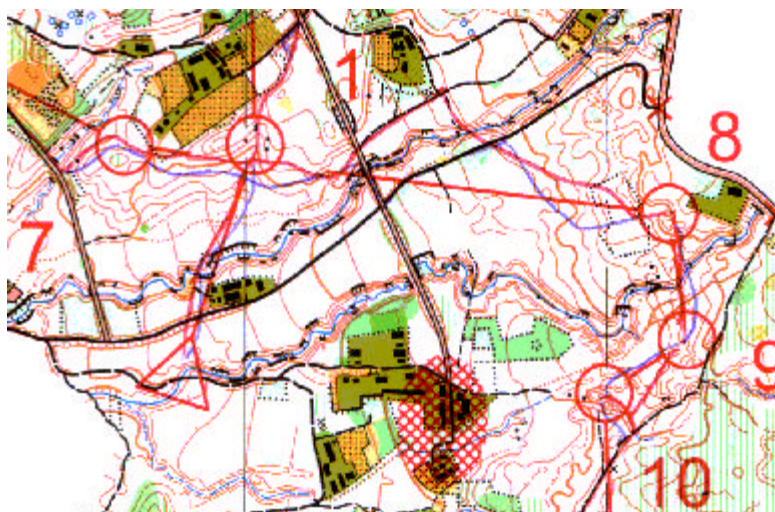
レグ線上の実践が鹿島田、  
点線 (ミス) は紺野。2 位可能性も消える。

志村は前半調子に乗り切れず、塩田をのぞく上位のラップと比較しても、5 番前後のラップが続く。その後 6 番 (図) で見るような大きなミスし、おそらくこの時点で 4 位に後退したと思われる。しかし、その後 1 位のラップを連続してたたきだす。特に 8 では、巧者志村の面目躍如のベストラップである。ルートを見てもさほど差を感じない林の区間で 1 分以上をつけている。

ここでの貯金をまもり、スピードでは圧倒的に優位に立つ塩田をかわした。



優勝志村、唯一の大ミス。ここで一時は 4 位に後退。



大きな差のないレグで、志村と他の選手の大差がつく (8 番)